

先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業
「強震応答実験装置を用いた構造物の耐震性能把握手法の確立」
利用成果報告書

平成 29 年 7 月 13 日

防災研究所長 殿

〔利用代表者〕

氏 名 大塚善史 (58 才)

職 名 一般

所属機関名 SUS 株式会社エコムグループ

所在地 東京都中央区日本橋小伝馬町 1-7 スクエア日本橋 3F

電 話 03-5652-2393

F A X 03-5652-2394

E-mail アドレス ohtsuka-y@sus.co.jp

利用目的	アルミサンドイッチで構成される建築構造物の振動試験を行い各部所の変位等を観測し今後のパネル開発のデータとする。今回は軽量タイプのサンドイッチパネルで構成される建築構造物で予備試験を行い耐火パネルで構成される建築構造物の振動試験測定の方法を検討する。
利用形態 (該当する項目を■にし てください)	<input type="checkbox"/> トライアルユース <input checked="" type="checkbox"/> 成果公開利用 <input type="checkbox"/> 成果非公開利用
利用期間	2017 年 3 月 28 日 ～ 2017 年 3 月 30 日
試験体仕様 (大きさ・重量)	W2.4mX D3.8mX H2.6m 重量 2.5 t
加振内容	加振パターン JMAKBA01XX, JMAKBA10XX, MSKMA01XX, MSKMA10XX 他 42 パター ン

次項に続く

<p>実験結果の概要と 実験により得られ た成果</p>	<p>MSKMA10XX では、最大層間変位が約 3.6mm、最大せん断荷重が約 20kN となった。最大応答加速度は入力した観測波形と比べ、大きな増幅は示さなかった。床と屋上で観測した微動のスペクトル比は、実験前後で大きく変化しなかった。</p> <p>軽量タイプのサンドイッチパネルでも十分な体力が期待できることがわかった。重量タイプの耐火サンドイッチパネルブースもほぼ同じ測定方法で試験を行うことが予想される。</p>
<p>社会、経済への波及 効果の見通し</p>	<p>実物大のブースのデータが蓄積され、地震に対応できる設計ができる。より説得力が得られる。</p>
<p>発生した発明・著作 物など (特許名称・出願番号・ 出願人、雑誌掲載資料)</p>	
<p>その他</p>	<p>施設の利用にあたりまして、ご要望等ございましたらご記入願います。今後の運用の参考にさせていただきます。</p>

- 1) 実験終了後、速やかに(原則1ヶ月以内に)提出下さい。
提出先:京大防災研究所 社会防災研究部門・都市空間安全制御分野
(E-mail:ito@zeisei.dpri.kyoto-u.ac.jp)
- 2) 文部科学省への評価報告が求められています。
知的財産権等の成果の追跡調査にもご協力宜しくお願い致します。